



2026 年 10 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ティアフォー
代表者名 代表取締役 CEO 加藤 真平
(コード番号：593A 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 CFO 阪口 聡志
(TEL. 03-4520-2315)

国土交通省「自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」の採択に関するお知らせ

当社は、大成建設株式会社（以下「大成建設社」といいます。）、大成ロテック株式会社（以下「大成ロテック社」といいます。）と共同で、国土交通省が実施する「令和 8 年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」に採択されましたので、以下のとおりお知らせいたします。

国土交通省の推進する「自動物流道路」とは、物流専用の空間において無人化・自動化された搬送機器により貨物を輸送する新しい物流システムです。本実証では、自動物流道路の社会実装を見据え、トンネル環境下などにおいて複数台の自動運転車両を走行させ、追従走行や対面走行、車線変更、分流・合流、障害物回避などの走行性能や、専用空間を念頭に、自動運転に必要な車載センサーと路側インフラの簡素化を検証します。あわせて、当社が開発する自動運転システム「Pilot.Auto」の適用性と拡張性、大成建設社の保有する自己位置推定支援技術「T-Localizer®」の有効性を検証します。

記

1. 本実証の内容

① 実 証 テ ー マ	複数台の搬送機器の自動走行の検証
② 実 証 概 要	直線部、曲線部において、3 台の自動運転車両を用い、先行・追従、追従・停止、対面、並走、停止機器すれ違い、分流・合流、落下物を想定した回避・追い越し、停止位置の正確性などを検証するほか、標準幅員・中間幅員・最小幅員等、自動物流道路に必要な走行空間について確認します。
③ 実 証 場 所	国土交通省 国土技術政策総合研究所 実大トンネル実験施設、試験走路（東直線、南ループ）
④ 実 証 時 期	2026 年 10 月下旬～11 月上旬（8 日間）
⑤ 使 用 車 両	実験用自動運転車両 3 台
⑥ 自 動 運 転 シ ス テ ム	自動運転用オープンソースソフトウェア「Autoware」を基盤として、当社が開発する自動運転システム「Pilot.Auto」

2. 本件の意義

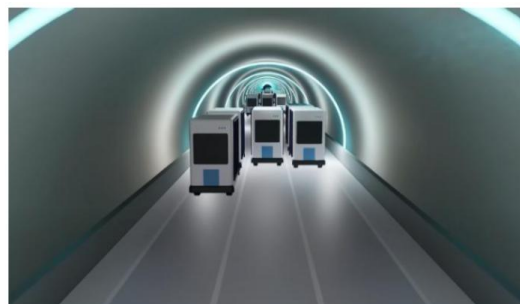
自動物流道路は専用空間となり、一般公道とは異なる交通環境や設備条件となることから、車両側の自動運転機能と道路側のインフラを組み合わせ、社会実装に適した空間構築を検討することが重要です。

これまで、当社は、自動運転用オープンソースソフトウェア「Autoware」を用いた自動運転車両の

提供など、大成建設社は、自動物流道路の社会実装に向けて自動運転車両の自己位置推定を支援するインフラ技術「T-Localizer®」や走行中の車両への電力供給を可能とする無線給電技術「T-iPower® Road」を、大成ロテック社は、T-Localizer®によって車載 LiDAR が認識されやすい塗料など、次世代モビリティを支えるインフラ技術の開発・実証を進めてきました。

また、自動物流道路への適用性検証のため、2025 年度には、国土交通省「自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」に参画し、「T-Localizer®」を活用した当社製車両の自動走行支援と無線給電技術「T-iPower® Road」に関する実証実験を実施したことで、その実現性と、運用の課題抽出を確認してきました。

2026 年度はその成果を踏まえ、当社、大成建設社、大成ロテック社の 3 社で、複数台の自動運転車両の運用を想定した走行性能を検証するとともに、自動物流道路のような専用空間の特性を生かし、車載センサーや路側インフラなど、自動運転に必要となる設備の合理化・簡素化について検証します。



(自動物流道路のイメージ：国土交通省HPより引用)

3. 今後の見通し

当社は、本実証で得られる知見をもとに、自動物流道路に求められる車両側の自動運転機能と道路インフラの役割を整理し、専用空間に適した自動運転システム・インフラ構成の合理化・簡素化を検討します。車両とインフラの双方から自動物流道路の社会実装に向けた技術基盤の構築に取り組んでまいります。

以上